

語学学校を終了し、渡米して約4ヶ月が経った。秋学期から、本格的に派遣留学プログラムの開始となる。今回の報告書では現在履修している科目と内容、アメリカでの生活について報告する。

今学期の履修科目

私は、留学中金沢工業大学では履修できない科目を積極的に取ろうと考えていた。しかし、履修申請は4月から始まっており、自分の興味のある授業は人気が高く履修申請時にすでに空きがなく履修できなかった。そこで今学期は自分の分野での理解を高めるため実技のある授業ばかりを履修した。今学期履修した科目を以下に示す。

<秋学期の履修科目>

- ・ ESL110:English pronunciation for academic purposes
- ・ ESL113:English structure and paragraph development for under graduates students
- ・ ME330:Engineering Materials
- ・ ME471:Introduction to Finite Element Analysis

ESL110:

ESL110では、授業開始時に担当教員と面談があり、英語の発音に関するテストを項目ごとに30分ほど受け自分の弱点を見つけます。/r//l/の違い Linking に関して弱点が見つかりました。授業中は発音記号の読み方、アクセントのつけ方の法則などを重点的に学びます。日本では発音記号の読み方はまったく学習していなかったのが苦労しました。しかし、今では発音記号を見て正しい発音ができるようになりました。またこの授業は宿題の数も他の授業に比べ多いです。テキストの読みあげレコーディングしたものを教員に送る、発音に関する法則を元に単語を発音記号で書く宿題など多くの種類の宿題が毎授業です。宿題は必ず教員からの細かなフィードバックを受ける事ができ分からない事があれば定期的に行われる個人面談で相談にものってもらえます。私はこの授業を通して自分の発音の問題を多く取り除くことが出来ました。

ESL113:

ESL113の授業は、クラスメートが全員日本人という環境で英語を学ぶという環境としては最悪です。この授業では、エッセイを書いてきてそれについての討議を行うというのが当初の目的でした。しかし、授業中に誰も口を開かないために授業は思うように進まず、授業方針が変わってしまいとてもつまらないものとなっています。私はクラス内で常に声を出すようにし先生の質問にも常に答えるように努力していましたが、本当に残念です。この授業では英語を学ぶよりも、日本人はシャイというだけでは片付けられない問題を体験し、簡単なリアクションすら起こす事のできない日本人の行動に失望しました。

ME330:

この授業は、レクチャーとラボの時間に分かれており、工大で学べる材料力学と材料に関する専門実験を一緒にした様なクラスです。レクチャーでは100人ほどの学生がホールで授業を受けます。授業中、学生は本を読んだり、隣の学生と先生の口癖をマネして笑っていたり、日本でも見かけられる状態ですが、自分が疑問を持ったところは挙手していつでも聞くという授業態度には見習うべき所が沢山ありました。ラボではクラスの人数が14人に減り実験は3~4人の小グループに分かれて行います。毎週実験を行い毎週レポートを出す。実験の内容も専門実験よりも内容が濃く毎回楽しく学ぶ事が出来ています。しかし、レポートを毎週まとめて提出する事はとても大変です。

ME471:

この授業では、有限要素解析ソフトの中で行われている数学を学ぶと同時に実際に MATLAB を使って解析ソフトを作ります。現在授業の約半分までが終わりました。ここまでは構造解析のソフトの製作でした。この後熱伝導の解析ソフトの製作などに授業が変わっていく予定です。この授業では1つの大きな章ごとにプロジェクトというものがあります。今回の章では構造解析だったためトラス問題を1つ取り上げ自分で作ったプログラムで解決するというものでした。私は期日までにプログラムを提出することが出来ませんでした。今回の目的は単位取得ではなく、あくまで自分のスキルアップなのでプログラムをとにかく自力で完成させる事を目標にがんばっています。

アメリカでの生活

現在私は一人部屋に住んでいます。私は自分の部屋の扉に、自分で書いた絵や撮った写真、メッセージボードなどを貼り付けています。寮内でもデコレーションをしている部屋はあまり無いため同じフロアの全く知らない人が興味を持って良く部屋をノックして遊びに来ます。私は自分なりの工夫で仲間を増やして楽しんでいます。

休日は学内の施設を利用してウエイトトレーニングと水泳に良く出かけます。利用者はとても多く施設自体もとても充実しています。学内では学生のモチベーションを保つ工夫が所々に見ることが出来ます。たとえば上記の施設やフリーのコンサート、映画鑑賞会や、さまざまなレクリエーションのイベントです。私は日本の大学で学生の為の学ぶ施設の拡張や施設の増設は見てきましたがそれに学生のモチベーションが必ずしも付いてきていないように感じました。ある程度の学ぶ施設があれば後は学ぶモチベーションが大事になってきます。アメリカの学生はオンとオフが本当に違いますオンは授業やレポートが忙しいため大変ですがオフになると学内の施設を利用してとにかく羽を伸ばしています。学生の質を上げるにはモチベーションを保つ施設の増設も効果があるのでは?と思いました。

他には学内のサービスです。インターネットの管理の仕事から寮のフロント、学内の売店、薬局のスタッフにいたるまで様々な場所で学生が働いています。日本とは大学院生という意味が大きく違うため出来る事かも知れませんが大学という大きな町を大部分で学生が運営していることに驚きました。

この国が戦争を外交手段からはずせない理由もアメリカの生活を通して感じる事が出来ます。交通手段はとにかく車。一日の行動範囲が広いので車が生活には必須です。また多くの人が車を利用するためガソリンの値段もとても安いです。政府が原油を手に入れる先を確保できず、ガソリンの値段が上がればこの国は生活の多くの部分が麻痺するでしょう。そのため原油の利権をめぐる戦争は避けられないように感じられます。また他の部分では学生でもお金を稼ぐために軍に入隊する人がいます。お金をただで国が配るわけにはいきません。軍は国の公共事業になるため、この国には貧しい人がお金を稼ぐ手段の一つに軍への入隊があります。貧富の格差が大きな国では軍縮は貧しい人たちの失職にもつながると思いました。街中ではシバシバ反戦のデモが行われています。ただ彼らの叫びは、戦争は悪いもの、人を殺すなというメッセージしかありません。戦争の本質、アメリカの現状を考える必要があります。デモをして軍が無くなったら路頭に迷う人が増えます。デモをしていた人たちはガソリンの値段が上がった事にデモを起こすでしょう。根本を考えなければ変わらないと思いました。

またこの国が京都議定書から外れた理由も車社会というところで感じられました。それに付け加えてとにかく建物の中での空調の設定温度が日本とは比べ物になりません。夏でも上着を持ち歩いていなと教室内が寒くて耐えられないということは良くありました。アメリカの人でも建物の中では長袖外では半そでと使い分けていました。この国も今温室効果ガスに対して対策を打ち始めていますがクールビズ、ウォームビズを導入するだけでもかなり変わるのではないのかと感じました。

その他

季節の変わり目で風邪をひいてしまい2週間ほど大変でしたが、ほとんどの授業がとにかく楽しく有意義な時間をすごせています。英語はまだまだですが、英会話に関してはかなり上達したように感じられます。早いものであと7ヶ月しかアメリカに居ることができません。残りの留学も意義のあるもの出来るよう積極的に多くの物に取り組んでいきたいです。

その他

完全に大学とは離れるため別にご書きましたが 私の感じたことです。

アメリカでの外食を通して学んだこと。私は在学中もアルバイトを継続して飲食店で行っていました。私は複数のお店を見てきましたが日本のアルバイト大半はお金を貰っているのとにかく仕事適当です。しかし、アメリカのシッティングレストランでは接客もサービスもかなり良い状態でした。アメリカ人の友達にその事に付いて聞くと彼らはチップが欲しいからサービスが良いんだっ、と教えてくれました。チップの為とはいえとにかくサービスは良かったです。日本でも仕事に応じて時給は違いますが、やはりチップが得られるというものは働いてお金を得る事を学ぶには良いと思いました。

私は日本ではチップは文化的に浸透することは不可能だと思います。また客もサービスを受けることを当然と考えているのでワザワザ財布からお金を払いたがりません。そこで、各テーブルに数百円程度の割り引きカードを置きもし店員のサービスがよければそれを店員に渡す。店員は貰った分は店からペイされ、客はサービスが気に入らなければその日の清算時にそのカードを使い割引サービスを受ける。この仕組みを導入すればバイトのモチベーションも上がり客も良いサービスを受ける事ができると思いました。